

逝ける映画人を偲んで 2021-2022

開催のお知らせ

国立映画アーカイブでは、日本映画の輝かしい歴史を築き、惜しまれながら逝去された映画人の方々を、それぞれの代表的作品を上映することで追悼する企画「[逝ける映画人を偲んで](#)」を2年ぶりに開催します。この2年のうちにも、日本映画は多くのかけがえのない人々を失いました。

今回の特集では、2021年1月1日から2022年12月31日の間に逝去された方々を取り上げ、俳優や監督からスタッフの方々、100名の映画人の業績を、作品の上映を通じて回顧・顕彰いたします。劇映画からドキュメンタリーやアニメーションまで、幅広いジャンルの全85作品を取り揃えた大規模な特集上映として、会期を2期に分け、全11週間の上映を行ないます。

監督では青山真治、大森一樹、小林政広、崔洋一、吉田喜重をはじめ、俳優では宝田明、田中邦衛、千葉真一、絵沢萌子など、また、衣裳デザインの森英恵、ワダエミ、そして、ドキュメンタリーを監督した杉原せつ、森田恵子、脚本の岡野薫子や信本敬子といった方々に光をあてます。縁の方々、そして映画ファンの皆様にも広くお知らせしたく、ぜひご紹介いただけますと幸いです。



『二人の銀座』



『DEAD OR ALIVE 犯罪者』 ©東映ビデオ/KADOKAWA 1999



『EUREKA』 (c) J-WORKS FILM INITIATIVE

《本特集で追悼する方々と上映作品》(五十音順)

青山真治 (監督)	『EUREKA』 (2001)	金宇満司 (撮影)	『サンダカン八番娼館 望郷』 (1974)
朝比奈順子 (俳優)	『バックが大好き!』 (1981)	金子尚樹 (編集)	『愛の予感』 (2007) 『日本の悲劇』 (2012)
荒木正也 (製作)	『死の棘』 (1990)	川津祐介 (俳優)	『惜春鳥』 (1959) 『裸体』 (1962)
石井隆 (監督)	『死んでもいい』 (1992)	河村光庸 (製作)	『かぞくのくに』 (2012)
石浜朗 (俳優)	『惜春鳥』 (1959)	木村玄 (俳優)	『座頭市二段斬り』 (1965)
一柳慧 (音楽)	『エロス+虐殺』 (1970)	桑原みどり (記録)	『二人の銀座』 (1967) 『逆逆のメロディー』 (1970)
伊藤正昭 (製作)	『エイジアン・ブルー 浮島丸サコン』 (1995)	小池照男 (映像作家)	『生態系-29-密度3』 (2021)
井上昭 (監督)	『座頭市二段斬り』 (1965)	構木久子 (記録)	『わらびのこう 蕨野行』 (2003)
井上修 (監督)	『アジアはひとつ』 (1973)	光地拓郎 (録音)	『灰土警部の事件簿 人喰山』 (2009) 『クジラのいた夏』 (2014)
井上陽一 (活動写真弁士)	『最後の活動弁士 井上陽一の世界』 (2016)	小林七郎 (美術)	『うる星やつら2 ビューティフル・ドリーマー』 (1984)
井川耕一郎 (監督)	『色道四十八手 たからぶね』 (2014)	小林政広 (監督)	『愛の予感』 (2007) 『日本の悲劇』 (2012)
岩内克己 (監督)	『レッツゴー! 若大将』 (1967)	小平裕 (監督)	『新宿酔いどれ番地 人斬り鉄』 (1977) 『映画を語る 東映大泉篇・II』 (2003)
植岡喜晴 (監督)	『精霊のささやき』 (1987)	小松原茂 (撮影)	『うなぎ』 (1997)
植田泰治 (製作)	『高原に列車が走った』 (1984)	崔洋一 (監督)	『友よ、静かに眠れ』 (1985) 『マークスの山』 (1995)
鶴久森典妙 (製作)	『最後の活動弁士 井上陽一の世界』 (2016)	西郷輝彦 (俳優)	『花いちもんめ』 (1985)
絵沢萌子 (俳優)	『濡れた唇』 (1972) 『ナースコール』 (1993) 『エイジアン・ブルー 浮島丸サコン』 (1995)	西東清明 (編集)	『高原に列車が走った』 (1984) 『ラブ・ストーリーを君に』 (1988) 『THWAY 血の絆』 (2003)
江原真二郎 (俳優)	『米』 (1957)	斎藤禎一 (録音)	『竹取物語』 (1987) 『ラブ・ストーリーを君に』 (1958)
江原達怡 (俳優)	『B・G物語 二十才の設計』 (1961) 『レッツゴー! 若大将』 (1967)	斎藤久志 (監督)	『フレンチドレッシング』 (1998)
大塚康生 (監督・作画監督)	『草原の子テングリ』 (1977)	坂本スミ子 (俳優)	『女体』 (1964)
大野松雄 (音響)	『猫の散歩』 (1962) 『ゼロの発見』 (1963) 『冬の日 ごごのこと』 (1964)	佐々木史朗 (製作)	『ロマンス』 (1996)
大森一樹 (監督)	『緊急呼出し エマージェンシー・コール』 (1995) 『イェスタデイワンスモア』 (2008)	佐藤蛾次郎 (俳優)	『逆逆のメロディー』 (1970)
岡野薫子 (脚本)	『花と昆虫』 (1956) 『猫の散歩』 (1962)	佐藤忠男 (映画評論家)	『生きてはみたけれど 小津安二郎伝』 (1983)
小畑絹子 (俳優)	『0線の女狼群』 (1960)	佐野浅夫 (俳優)	『ザ・ドリフターズの極楽はどこだ!!』 (1974) 『お葬式』 [再タイミング版] (1984)
恩地日出夫 (監督)	『女体』 (1964) 『わらびのこう 蕨野行』 (2003)		
鍛冶昇 (監督)	『二人の銀座』 (1967) 『わが映画人生 鍛冶昇監督』 (2007)		
片桐夕子 (俳優)	『鬼の詩』 (1975)		

澤井信一郎 (監督)	『ラブ・ストーリーを君に』(1988) 『わが映画人生 マキノ雅裕監督』(2002) 『映画を語る 東映大泉篇・II』(2003)	福本清三 (俳優)	『将軍家光の乱心 激突』(1989)
澤田幸弘 (監督)	『反逆のメロディー』(1970) 『わが映画人生 澤田幸弘監督』(2009)	藤由紀子 (俳優)	『黒の超特急』(1964)
沢本忠雄 (俳優)	『事件記者』(1959)	藤山陽子 (俳優)	『B・G物語 二十才の設計』(1961) 『二人の息子』(1961)
ジェリー藤尾 (俳優)	『地平線がざらざらっ』(1961) 『銀座の恋の物語』(1962)	船戸順 (俳優)	『B・G物語 二十才の設計』(1961)
杉原せつ (監督)	『ゼロの発見』(1963) 『冬の日 ごごのこと』(1964)	前田米造 (撮影)	『お葬式』 [再タイミング版] (1984) 『THWAY 血の絆』(2003)
鈴木志郎康 (監督)	『草の影を刈る』(1977)	牧口雄二 (監督)	『玉割り人ゆき』(1975) 『玉割り人ゆき 西の廓夕月楼』(1975)
高岩淡 (製作)	『火宅の人』(1986)	松田寛夫 (脚本)	『新宿酔いどれ番地 人斬り鉄』(1977) 『花いちもんめ』(1985) 『将軍家光の乱心 激突』(1989)
高橋一郎 (監督)	『最後の活動弁士 井上陽一の世界』(2016)	松原信吾 (監督)	『青春かけおち篇』(1987)
高橋卓也 (製作)	『よみがえりのレシピ』(2011) 『わらびのこう 藤野行』(2003)	松本隆司 (調音)	『青春かけおち篇』(1987)
宝田明 (俳優)	『二人の息子』(1961) 『レッツゴー! 若大将』(1967)	水木正子 (俳優)	『高校生芸者』(1968)
田中邦衛 (俳優)	『レッツゴー! 若大将』(1967) 『若者たち』(1968)	村山新治 (監督)	『警視庁物語 遺留品なし』(1959)
田村正和 (俳優)	『この声なき叫び』(1965)	森英恵 (衣裳デザイン)	『銀座の恋の物語』(1962)
千野皓司 (監督)	『THWAY 血の絆』(2003)	森川時久 (監督)	『若者たち』(1968)
千葉真一 (俳優)	『ファンキーハットの快男児』(1961) 『ファンキーハットの快男児 二千万円の腕』(1961) 『将軍家光の乱心 激突』(1989)	森田恵子 (監督)	『旅する映写機』(2013)
中野昭慶 (特技監督)	『竹取物語』(1987) 『女体』(1964)	柳瀬志郎 (俳優)	『事件記者』(1959)
仲本工事 (コメディアン・俳優)	『ザ・ドリフターズの極楽はどこだ!!』(1974)	山崎善弘 (撮影)	『二人の銀座』(1967) 『反逆のメロディー』(1970)
成沢昌茂 (監督)	『裸体』(1962)	山内静夫 (製作)	『生きてはみたけれど 小津安二郎伝』(1983)
二瓶正也 (俳優)	『B・G物語 二十才の設計』(1961) 『反逆のメロディー』(1970)	山本暎一 (監督)	『哀しみのベラドンナ』(1973)
布村建 (監督)	『フェアブル 昆虫記の世界 一カリバチの習性と本能一』(1977) 『空からみた日本の火山』(1978)	山本圭 (俳優)	『若者たち』(1968)
沼田和夫 (録音)	『DEAD OR ALIVE 犯罪者』(1999)	山本豊三 (俳優)	『惜春鳥』(1959)
信本敬子 (脚本)	『ナースコール』(1993)	結城良熙 (製作)	『十八歳、海へ』(1979)
野村昭子 (俳優)	『死の棘』(1990)	吉田喜重 (監督)	『秋津温泉』(1962) 『エロス+虐殺』(1970)
橋田寿賀子 (脚本)	『砂糖菓子壊れるとき』(1967)	李麗仙 (俳優)	『わらびのこう 藤野行』(2003)
原正人 (製作)	『哀しみのベラドンナ』(1973) 『乱』(1985)	隆大介 (俳優)	『乱』(1985) 『エイジアン・ブルー 浮島丸サコン』(1995)
		ワダエミ (衣裳デザイン)	『乱』(1985) 『竹取物語』(1987)
		渡辺千明 (脚本)	『十八歳、海へ』(1979)
		渡辺宙明 (音楽)	『東海道四谷怪談』(1959) 『0線の女狼群』(1960)



『THWAY 血の絆』



『この声なき叫び』(C)「かぞくの心」製作委員会



『わらびのこう 藤野行』



『この声なき叫び』

逝ける映画人を偲んで 2021-2022

In Memory of Film Figures We Lost in 2021-2022

会期: [第1期]2023年7月4日(火)―9月3日(日) [第2期]2023年10月10日(火)―10月22日(日)

※会期中の休映日:月曜日および10月13日(金)、14日(土)

会場:国立映画アーカイブ 長瀬記念ホール OZU[2階]

HP:<https://www.nfaj.go.jp/exhibition/yukeru202305/>

お問い合わせ:050-5541-8600(ハローダイヤル)

料金:一般520円/高校・大学生・65歳以上310円/小・中学生100円/

障害者手帳をお持ちの方(付添者は原則1名まで)・キャンパスメンバーズは無料

*チケットのオンライン販売は各上映日の3日前正午からとなります。その他の購入方法など、チケットの詳細につきましては HP をご確認ください。

【本特集に関するお問い合わせ(プレス用)】 国立映画アーカイブ(上映室:横室・森宗・中西)

〒104-0031 東京都中央区京橋3-7-6 MAIL:pr@nfaj.go.jp TEL:03-3561-0823 FAX:03-3561-0830